

カナダの概要（一般事情）

訳：Chie Richter & Takako Otake
資料提供：Victoria International Exchange Centre

（資料提供 2008 年 1 月）

カナダの概要

1. 面積

カナダはロシア連邦に次いで世界で 2 番目に広い国（日本の 27 倍）です（総面積 998 万 4,670km²）。

2 / 3 は未だに未開発。人口密度としての比較では 1 平方キロ当たりの人口は日本が 322 人に対して、カナダ人は 2.7 人となっています。

2. 人口

	総人口	65 歳以上
2003 年度	約 3,100 万人	約 393 万人 (約 12.7%)
2006 年度	約 3,200 万人	約 413 万人 (約 12.9%)
2007 年度	約 3,277 万人	約 431 万人 (約 13.1%)
2026 予測	約 3,900 万人	約 913 万人 (約 23.4%)

人口が国土面積に対して少ない為に、移民制度というものがあるために全体が人種のモザイクと呼ばれています。イギリス系の 45%を始め、フランス系 30%、その他イタリア、ドイツ等のヨーロッパ系、中国、日本、インド等の東洋系等、それぞれが各自の文化の特徴を生かしながら、1つのカナダという国を形成している点は隣のアメリカ合衆国とは少々違ったユニークな国といえます。

1945 年以前は移民の大半がヨーロッパ系でしたが、1945 年以降、アジア、南米からの移民が増え、多文化モザイクを豊かにしました。現在はイギリス/フランス系、先住民を除く人口が全体人口の 5 分の 2 になっています。

3. 首都

オンタリオ州オタワ

4. 州と準州

カナダは 10 州と 3 準州で構成されています。カッコ内は州都（準州）。

アルバータ州（エドモントン）

ブリティッシュ・コロンビア州（ビクトリア）

プリンス・エドワード・アイランド州（シャーロットタウン）

マニトバ州（ウィニペグ）

ニューブランズウィック州（フレデリクトン）

ノバスコシア州（ハリファックス）

オンタリオ州（トロント）

ケベック州（ケベック・シティ）

サスカチュワン州（リジャイナ）

ニューファンドランド・ラブラドール州（セント・ジョンズ）

ノースウエスト準州（イエローナイフ）

ユーコン準州（ホワイトホース）

ヌナブト準州（イカルイト）

5. 歴史

カナダといって思い浮かぶものといえば、「広大な国土」「雄大な自然」などがまずあげられますが、そのバックグラウンドとなる歴史も又奥深いものがあります。

カナダのお金を見るとコインにはカナダ特有の動物、あわせてお札には英国エリザベス女王の姿があります。16 世紀、フランスや英国の探検家が次々とカナダへやってくるようになり、定住植民地を築ようになります。

やがて、英国とフランスとの激しい抗争の結果、1759年にパリ条約が結ばれ、これら全植民地が英国の支配下に入りました。1867年によやく自治権を持つ植民地になり、第一次世界大戦の参戦後、独立国として認められることとなります。これが現在、カナダで英語とフランス語が公用語となる起原である。

国の象徴である日本の天皇と似ているような気がしますが、カナダの女王でもある英国女王は、「君臨すれど統治せず」でその権限をカナダ総督に委任しています。

6. 公用語

英語とフランス語になっていて、フランス語はフランス系人口の多いケベック州とニュー・ブランズウィック州の一部で公用語として使用され、他の地域では英語が公用語となっています

7. 時間帯

カナダは6つの時間帯に分かれている。最東端のニューファンドランド標準時は、グリニッチ標準時(GMT)より3時間半遅い。西向きに大西洋標準時、東部標準時、中央標準時、ロッキー山脈(山岳)標準時があり、そして最西端の太平洋標準時はGMTの8時間遅れです。

8. 政治制度

カナダは、議会制民主主義に基づく立憲君主制の連邦国家である。

立憲君主国：英国女王を国家元首とする英連邦の一員。首相の助言により英国女王が任命する総督と、総督が任命して各州に置かれる副総督が女王を代表する形をとります。

連邦議会：上下2院、議員内閣制

* 上院...首相の指名に基づき総督による任命制

* 下院...小選挙区制

連邦選挙投票率(2004年)：60.9%

9. 国民の権利と自由

カナダでは、国民の権利と自由が1982年4月17日に発効された「権利と自由の憲章」によって保障されています。

憲章はカナダ人が自由で民主的な社会において必要と信じている権利と自由を定めており、以下のように権利と自由を保障しています。

表現の自由

民主的権利

カナダ国内の何処にでも住居を定め、働くことのできる権利

犯罪被告の法的権利

先住民の権利

男女平等を含む平等の権利

いずれかの公用語を使う権利

フランス語または英語の少数派が彼らの言語で教育を受ける権利

カナダの多文化遺産の保護

10. 税金

*消費税(BC州)

GST(国税)5%+PST(州税)7%=12%

*免除品

- ・ほとんどの食料品(嗜好品は除く)
- ・医者や歯医者の方箋で購入する薬
- ・身体障害者や慢性病のための治療器具
- ・子供服
- ・子供用カーシート
- ・新聞・雑誌

*収入にかかる税金の割合。

(額面\$3,000が一カ月の給料だとすると)

所得税	648.85 ^{ドル}	21.63%
国民年金	94.79 ^{ドル}	3.16%
雇用保険	76.50 ^{ドル}	2.55%
手取り	2,179.86 ^{ドル}	72.65%

* 所得税 2003年では、

年収	% : \$
\$ 8,000 以下	0% : \$ 0
\$ 8,001 - \$ 32,000	22% : \$1,760 - \$7,040
\$ 32,001 - \$ 64,000	31% : \$9,920 - \$ 19,840
\$ 64,000 - \$ 73,000	38% : \$24,320 - \$27,740
\$ 73,000 - \$ 105,000	41% : \$29,930 - \$43,050
\$ 105,000以上	44% : \$46,200 以上

11. 物価

物価が安いと見られがちカナダですが、実際は？（例：月収 \$2000 の場合、所得税を引かれた後、実際の手取りは \$1600 ほど。）

* 生活費：1人暮らしの1ヶ月の支出例

(カナダドル105円計算。2008.01.現在)

科目	金額
1LDKのアパートの家賃 (水道代、暖房代込み)	約 600 ~ 700 ドル (63,000 ~ 73,500 円)
電話代 (市内のみ)	約 45 ドル (4,700 円)
電話代(遠距離 / 日本に 30分 / 週1回の割合で)	約 30 ドル (3,150 円)
電気代	約 20 ドル (2,100 円)
ケーブル(TV)	約 45 ドル (4,700 円)
食費	約 250 ~ 300 (26,000 ~ 31,500 円)
健康保険費(BC州)	約 56 ドル (5,900 円)
合計	約 1,046 ~ 1,196 (109,800 ~ 125,600 円)

* 娯楽費の例

映画	8 ~ 10 ドル (840 ~ 1,050 円)
文庫本	12 ~ 10 ドル (1,260 ~ 1,050 円)
レストランでの食事 (チップ)	12 ~ 20 ドル (約 15%)

などとなり、決して物価の安いところでは、ありません。

12. 生活水準

カナダの生活水準は、米国、スイス、ルクセンブルグ、ドイツ、日本に次いで世界第6位

(国民一人あたりの国内総生産で比較)

国民一人あたりの国内総生産に加え、「生活の質」につながる寿命、教育などの要因を考慮に入れた調査では、カナダはさらに上位にランクされることが多い。

13. 医療と社会保障

国連人間開発指標(人の生活の質や発展度合いを示す指標)では例年上位に評価され(特に1996年から2000年までは1位でした)、世界で生活しやすい国のひとつとして認められています。環境も汚染されておらず、世界で乳幼児死亡率も低く、また最長寿命国のひとつでもあります。

カナダは優れた健康保険制度があり、歯の治療を除いて、基本的な医療は(CTスキャンやウルトラサウンドそして、出産、子どもの予防注射、入院のときも個室はカバーされませんが、相部屋ならOK)無料で提供されています。

医師や病院を訪れる際にヘルスカードを提示します。ヘルスカードは健康保険加入者に与えられ、州の保険省の出先機関で加入手続きをとります。BC州では毎月\$56の健康保険料をすべての住居者が支払うことになっています。

(家族2人の場合は毎月\$94、家族が3人以上の場合は毎月\$108)

* BC州の健康保険料の免除

20,000 ドル 以下 (約 2,100,000 円)	100% 免除
20,001 ~ 22,000 ドル (2,100,105 ~ 2,310,000 円)	80% 免除
22,001 ~ 24,000 ドル (2,310,105 ~ 2,520,000 円)	60% 免除
24,001 ~ 26,000 ドル (2,520,105 ~ 2,730,000 円)	40% 免除
26,001 ~ 28,000 ドル (2,730,105 ~ 2,940,000 円)	20% 免除
28,001 ドル (311,640,105 円)	

* 薬は、ドクターに処方箋をかいてもらい、それを薬局にもって行き、薬を作ってもらいます。これは実費となっています。

* 65歳以上の人および生活保護受給者は、処方薬も大半の場合が無料。またカナダは老齢年金、家族手当、失業保険、福祉など、社会保障制度が完備しています。

14. 医者と病院

* ファミリードクター

カナダでは、各家庭に一人の担当医、ファミリードクターを決め、普通の健康診断や相談事などは、そのドクターに診てもらいます。小児科、産婦人科、内科、外科等の区別なく、すべて、まずそのファミリードクターに相談し、そこから専門医の手配をしてもらうことになります。

急病や怪我等でファミリードクター以外の医者にかかった場合でも、検査結果はファミリードクターに連絡され、後々の治療等はファミリードクターによってひきつがれます。

* クリニックとホスピタル

ファミリードクターというのは、病院（ホスピタル）に勤務しているのではなく、そのドクター自身のオフィス（クリニック）をもっています。その診療所（クリニック）に予約の電話をいれ、予約時間に行くとすぐに診てもらえます。クリニックには簡単な診療台があるだけで、手術や入院の設備はなく、手術や検査の際は、病院（ホスピタル）に行くことになります。これもやはりファミリードクターから紹介状をもらい、予約を入れます。

15. 教育

カナダの学校教育で最も誇るべき点は、学校あるいは地域による格差が極めて少ないことです。またカナダは教育水準が大変高く、誰にでも最高の教育機会が与えられています。カナダは人口一人当たりの教育に世界で一番お金を使っています。また、専門学校、カレッジ、もしくは大学で教育を受けた成人の割合は53%と高いことが統計で示されています。

多くの先進工業国と異なり、カナダにおける教育の責任は連邦政府ではなく州にあります。

初等学校は6年から8年間、中等学校（日本の中学高校にあたる）は4年ないし5年間、大学は3年ないし4年間となります。各州の教育制度は、大筋では類似しているものの、各州に固有の地域性、歴史、文化を反映しています。

小学校と中学・高校の管理は、地域の教育委員会に託されています。

義務教育は、6～7歳から15又は16歳まで。義務教育が十分行き届くように、中等教育（secondary education 日本の中学・高校に相当）までは全ての公立学校が公的資金で運営され、すべてのカナダ人に対して無償です。

日本とは異なり、カナダの大学生のうち4人に1人は24歳を超えており、多くのカナダ人が社会生活のなか、高等教育に戻る傾向があります。

これはカナダ社会に“生涯学習”という概念が浸透していることです。

16. 労働（2001年と2004年の統計）

	2001年度	2004年度
一週間の基準労働時間	40.0時間	40.0時間
実際の平均労働時間	31.6時間	31.3時間
平均年収	男性 38,400ドル 女性 24,688ドル	男性 40,300ドル 女性 32,400ドル
失業率	7.7% (2003年3月統計)	6.1% (2007年3月統計)

British Columbia 州

1. 州都

* ビクトリア

* 人口

	総人口	65歳以上
ビクトリア州都圏 (2001年度)	約 312,000人	約 55,000人 (約 17.4%)
ビクトリア市 (2006年度)	約 78,600人	14,770人 (約 18.9%)

2. 歴史

1744年スペイン探検家がファンペレス隊長のもとにカナダ西海岸に到着、更に北のディクソン・エントランスに達し、西海岸をスペイン領としました。次いで、1778年イギリスの世界的にも有名な大航海家ジェームス・クック船長が3度目の世界一周航海の途中にバンクーバー島のヌートカにイギリス人として初めて到着しました。又、イギリスが北太平洋沿岸一帯の正確な海図を作る為にジョージ・バンクーバーを派遣したのは1791年でした。彼はこの航海で調査測量の途中、フッカ海峡近くにある大きな島を発見し、これをバンクーバー島と命名しました。

1949年、ビクトリア女王はバンクーバー島をイギリスの植民地と決め、ビクトリアを首都としました。又、その後、1858年、ロッキー山脈より西側の本土の土地はブリティッシュ・コロンビアと名づけられ、その首都にはフォート・ラングレーが選ばれましたが、バンクーバー島の総督がブリティッシュ・コロンビアの総督も兼任したので、1つにまとめられ、1859年、ニュー・ウエストミンスターに一時期、移された後、直ぐ同年に再びビクトリアに戻されました。

そしてこの2つの植民地は1866年に正式に統合され「ブリティッシュ・コロンビア」となりました。ブリティッシュ・コロンビアという名前は、アメリカをコロンブスとの発見した土地という事で、コロンビアと呼ぶ当時の習慣から「イギリス領コロンビア」を意味してつけられたといわれています。

1871年7月20日、東部カナダからの大陸横断鉄道をバンクーバーまで延長する事を条件として、カナダ連邦に6番目の州として加入しました。

3. 経済

州の経済は、膨大な天然資源を基盤としている。中でも広大な森林は、州面積の56%を占める。針葉樹が中心で、木材、新聞用紙、紙・パルプ製品、建材（シングルやシェーク）などの

原料となる。BC州の針葉樹林は、カナダの針葉樹林全体の半分を占めています。

次に重要なのが観光です。毎年1,500万人がブリティッシュ・コロンビアを訪れます。500万ヘクタールの公園区域をもつカナディアン・ロッキーは、依然として州一番の人気を誇っています。それに劣らないのが、美しい浜辺やハイキングコース、芸術家村、野生生物保護区、クジラ・ウォッチング、その他たくさんの観光資源をもつ州沿岸部です。

観光客にとって人気が高まっているのは、クイーン・シャーロット島でしょう。島の大部分は最近、公園区域に指定されました。ほとんど手つかずの自然があり、珍しい種類の花も自生しています。ハイダ族のニンスティンツ村の廃墟は歴史的にも、文化的にも価値が大きく、ユネスコの世界遺産区域に指定されました。

州第3の産業は鉱業です。銅、金、亜鉛が主な産出金属で、ほかにイオウ、アスベストも主要な産業用鉱物となっています。

一番価値ある資源といえば、石炭、石油、天然ガスです。

農業と漁業（特にサーモン）も、州経済の中で大きな比重を占める部門です。州の乳牛は、カナダで最も生産性の高い部類に入ります。オカナガン・バレーで知られる州南部の内陸部は、果樹園とぶどう畑が一面に広がり、ワイン生産が有名です。フレーザー川下流域では、涼しい湿った気候がイチゴ類と野菜の栽培を盛んにしています。

BC州の製造業は今日でも、資源に大きく依存していますが、電気通信と航空宇宙、海中技術に関連したハイテクやコンピュータ関連の産業が徐々に興隆し、多様化の道を歩んでいます。

州の輸出市場は、カナダ各州の中でも最もバランスがとれているといわれています。輸出先は米国、日本、EU、太平洋諸国などです。

HP はひの社会教育センター検索でどうぞ